

「天国の7つのたとえ 3」

からし種のたとえ・パン種のたとえ

今回の、主イエスが言われた、「天の御国」が『からし種』と『パン種』に似ているとは、どのような意味なのだろうか。このたとえには、主イエスの解説が載せられていない。

しかし「天の御国」について別の箇所、主イエスは「神の国は…『見よ、ここだとか』、『あそこだ』と言えるようなものではありません。…神の国はあなたがたのただ中にある」(ルカ 17:20, 21) と言われている。これから「天の御国」とは「天国」という場所や地域ではなく、目に見えない神が支配されるところ全てであることが分かる。私たちが主イエス・キリストを信じ、心を神に明け渡すとき、「天の御国」は拡張され、大きく広がっていくことを現しているのである。

確かに、エルサレムの外れ、ゴルゴダの丘から始まった主イエス・キリストによる信仰、福音は、世界に広がり、今日大きな影響力を全世界に与えているのである。

[聖書の学び]

I、「からし種」のたとえ(マタイ 13:31 p27)

1、からし種とは、何か？

①からし種（からし菜の種）この種をすりつぶし、水を加えて練った物が「和がらし」である。

マスタードとは品種が違うが、粒マスタードの粒の大きさ(約0.5mm)と、殆ど同じである。

からし菜は黄色の花を咲かせ、さやの中に実＝種ができる。当時の人々が目にする、一番小さな種が「からし種」であったが、中東の気候で高さ 2m 以上、横幅が 3m のになる。

2、「からし種のたとえ」(マタイ 13:31～32)

①からし種の特徴… 隠れた、見えない存在。

人間は香辛料として用いるが、鳥は好まない。

地面に落ちていても砂や土に紛れて気づかない。

②「畑に蒔かれた」を前の「4つの種のたとえ」に照らして、良く耕された良い地にするために、農夫はどうするのでしょうか？(マタイ 13:23)

・木の根や石を取り除く ・深く掘る ・土に肥料を与え、改良する

③マタイ 17:20(p35)に、主イエスは、人の目に見えない小さいからし種を「信仰」と言い換えておられます。それなら、「天の御国はからし種に似ています」とは、どのような意味でしょうか。

Ⅱ、「パン種のたとえ」(マタイ 13:33)

1、パン種とは何か？（当時は酵母菌、現在なら重曹、ベーキングパウダーもこのたぐい？）

◎発酵させて膨らませたパンを食用としていた。パン種は、酵母菌のことである。

2、ユダヤ人の「パン種」を入れることに対する印象

①聖別されたパンは、パン種を入れない・・・エジプト脱出の日、神が言われたことば
過越の祭に食べるのは、種を入れないパンのみを用いた。（出エジプト 12:15 p119）

・ガリガリで食べるには好まれない。

②「偽善」として用いられる（実態がないのに、大きく見せる）

・主イエス自身も、パリサイ人のパン種とか、サドカイ人のパン種、ヘロデのパン種

(ルカ 12:1)

・パウロも「わずかなパン種が、こねた粉全体を膨らませる」(1コリント5:6)と語る。

3、この箇所、主イエスが「パン種」を用いた意味

・女の人（当時は弱い、役に立たない。能力がない存在と見られていた）

・3サトンの粉（1サトン=13ℓ）39ℓ=約30kg

強力粉 1ℓ = 700~850g

①たとえ女であっても、パン種を入れると、さらに多くの人に食べさせられる。

②パン種を入れると…ふっくら美味しいパンになり、人を喜ばせる。

③ここで言うパン種は、生まれながらの実力ではなく、イエス・キリストより
与えられたご聖霊により、大きな影響を人々に与える事が出来る。

Ⅲ、「からし種」と「パン種」のたとえの意味

1、両方とも、好まれない、あまり人目に付かない、分からない存在

2、「からし種」を好まない鳥が、やがてその木に来て宿り、巣を作る。

3、「パン種」は人々に好まれない。しかし主イエスの「パン種」は信じる人を変え、
膨らみ、多くの人を潤すようになる。

* **ディスカッション** （心を開いて互いに話し合ってみましょう）

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。